



TITLE:

静脩 Vol. 2 No. 3 (1965.9) [全文]

AUTHOR(S):

CITATION:

静脩 Vol. 2 No. 3 (1965.9) [全文]. 静脩 1965, 2(3)

ISSUE DATE:

1965-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/65909>

RIGHT:



The Kyoto University Library Bulletin

静脩

1965年 9月

Vol. 2, No. 3

医学図書館

西尾雅七

先般米国の医学教育と医学図書館を視察する機会を得たのでカリフォルニア大学、サンフランシスコ医科大学を振り出しに3カ月ばかり、米国の有名な医科大学を訪ねてまわり、ボストンから英国へ渡ったが、この間20ばかりの医学関係の図書館を視察することができた。

近年わが国においても、各教室にあった図書室を中央化して医学図書館を置く方向に向っており、またそれらが互に連繫を密にして情報交換を積極的に行なうようになって来ているが、まだまだ近代的な医学図書館といえるような運営がなされているとはいえない。

米国で医学図書館が中央化した姿で運営されだしたのは、コロンビア大学の医学図書館においては、40年前のことだったそうである。したがってわが国の医学図書館が米国のそのような運営がなされるようになるのにはまだ数年、否10数年はかかると思われる。

米国の医学図書館をみてまわって印象に残ったことを以下に記すが、これは医学図書館に限らず参考になる点があると思う。

図書館の司書の地位が高く、運営上においても、その演じている役割が極めて大きい。このことは、わが国の司書の地位、演じている役割と大きく異なっているところである。

いずれの図書館においても図書の購入費も含めて大学本部から直接に来ており、わが国の国立大学のように教官研究費からいくばくかを差し出しているのとは全く違っている。したがって図書館が独自の判断で雑誌、図書の購入をしているのであるが、それだけに司書の責任は重く、図書委員会、研究者の助言を聞きながら業務を行なっている。

また図書館は研究者に便宜を与えていることをモットーにしているためまえからか、開館時間が極めて長い。多くの図書館は月曜日から金曜日まで朝8時あるいは8時半から午後11時まで、土曜日は午後6時まで、日曜日は午後2時から午後5時あるいは6時まで開館しているが、ロスアンゼルスのカリフォルニア大学生物医学図書館は月曜日から木曜日までは朝7時45分から真夜中まで開館している。

このように開館時間が長いので夜間はいわゆるアルバイト学生が管理にあたっているが、医学部学生は勉強に追われるので、とてもアルバイトをやる余裕はないとのことだった。

借り出し図書の問題には、いずれの図書館も頭を悩ましており、ジョンボブキンスのウェルヒ医学図書館やヒューストンにあるテキサス医学センター図書館などでは期限切れの借り出し図書に対しては日数に応じて罰金を徴しているが、クリーブランドの医学図書館では返還図書を受入れる箱が道路のそばや、図書館の入口に置かれたりしている。どこでも借り出した図書を期限に返さなくて迷惑をかける研究者はいるものらしい。

ニューヨークではニューヨーク医学アカデミーの図書館（全米第2を誇っている）を中心に10ばかりの医学図書館が連繫をとり、毎日定期便をもって図書館間の本の貸借をやっている。さらにコロンビア大学、エール大学、ハーバード大学の各医学図書館は電子計算機を用いて互に情報交換をやろうとしている。

とにかく医学関係の情報が激増しているので、一つの図書館だけでは十分な情報が提供できなくなってきたのが、医学界の現状のようである。

（医学部教授）

指定図書についてのアンケートを集計して

指定図書制度は図書館運営を大学の教育と密着せしめる方法として、この制度の充実が期待されているが、本館においても本学の教官が指定図書制度についてどのように考えておられるかを知るためにアンケートをお願いした。調査事項は次の如くである。

- A 指定図書をどのようにお考えですか
- 1 教科の履習のため必ず読むべきものの。
 - 2 講義、演習の内容を展開する意味で、参考的に読むことが望ましいものの。
 - 3 教科の履習とは無関係に一般教養的な意味で読むことが望ましいものの。
- B 指定図書のご指定について
- 1 指定図書を指定しているか。前年度指定した冊数。
 - 2 指定図書を指定していない。
- C 指定図書の利用の仕方は
- イ 単に学生に指定図書を指示しておくだけ。
 - ロ 指定図書の内容を試験範囲に加える。
 - ハ 授業中に指定図書の内容について学生と質疑応答をおこなう。

調査票は797名の全教授、助教授に配布し、約2週間の期限で回収したのであるが、回答は345通で依頼数の約43%にあたる。回答率の良かったのは教育学部の80%

と工学部の73%であった。

各事項の回答をみると、Aの問題については(1)の「必ず読むべきもの」というより、(2)の「参考的に読むことが望ましいもの」と回答された方が圧倒的に多く3倍余りを示している。しかし文学部のみは回答の絶対数は少なかったが、(2)よりも(1)が多かったのは注目すべきであろう。またBの問題については、「指定している」と答えた教官は回答数の約42%で、それ等の方々の指定しておられる冊数は1～5冊が全体の85%であり、特例としては1人の教官で50冊指定しているというのもあった。次のCの問題をみると、イ、ロ、ハ、3つの問題のうち(イ)の「単に指定図書を指示しておくだけ」と回答されたのが69%あり、Aの問題の「参考的に読むことが望ましい」という回答数の多かったのと同じ傾向を示している。

この簡単な調査から結論的に言えることは、本学においては指定図書の指定がまだ充分には行なわれていないということである。しかし一方本館としても副本の備えつけは要求されても今のところ困難である。このような副本の備えつけがないということは、指定図書制度の効果を著しく阻害することになる。

指定図書制度充実のため、文部省としても経費の予算化をはかっているが、この制度の発展のためには教官のいっそうのご協力が期待されなければならない。

Date due Slip の採用について

本館では夏の休暇あけの8月16日より開架図書室に排架されている図書についてDate due Slipを採用することになった。これは図書の利用頻度を知るための日付記入用紙で、図書の裏表紙うらにはりつけてある葉書大の用紙がそれである。

カウンターの係員は、図書が利用されるつど、この用紙にその日の日付印を捺すが、日付印の数によってその図書の利用度

を知り、それを資料として利用度の高い図書に対しては副本の充実を考慮し、また利用度の低い図書については開架室から除くことも考慮しなければならない。

このように、この制度は閲覧奉仕の改善を目的とし、あわせて開架図書の事故防止をも考慮して始められたものであるから、利用者のご協力をお願いしたい。

医学関係の指定図書を医学図書館へ

静修の前号でも報告されたとおり医学図書館が竣工し、医学に関する専門図書館として発足することになった。本館においてもこれを祝し、医学図書館の蔵書構成をより充実させ、また学生は

じめ研究者の利用の便をも考慮して、本館開架図書室に排架されている指定図書のうち、医学関係の図書191部271冊を医学図書館へ移管したので一層の利用を期待する。

国立大学図書館長会議（第12次）

標記の会議は6月30日、7月1日の両日、文部省主催の国立大学図書館研究集会（6月29日～30日）にひきつづいて、北海道大学で開催された。

研究集会のテーマは「指定図書について」であり、とくに本年度はこの問題一本にしぼったところに文部省の指定図書に対する熱意がうかがわれた。

図書館長会議には、各地区から22の協議題が提出されたが、そのうちの9議題は定員増と図書館維持費の増額に関するもので、毎年出されるこれらの問題に対する協議題の多さからしても、今の大学図書館の定員ならびに予算の不足の深刻さが痛感される。さらに今年度は指定図書費の予算化

に関して議題が出されたが、指定図書制度の充実に対する館界の期待のほどが想察される。

新しい提案としては「職員数算定基準のための事務量の調査」及び「図書の廃棄、不用決定の基準」等があったが、いずれも館長会議の中で委員会を設けて今後検討を続けることになった。

会場の札幌は、梅雨のなごりのまだ明けきらぬ陰うつな日が続いたがクラーク会館の中の会議は連日、熱心な討議の花をさかせ、盛会のうちに終了した。

本学からは館長、事務部長、整理課長が参加した。

近畿地区大学図書館研究集会

近畿地区国公立大学図書館協議会の主催で、大学図書館研究集会が8月26、27の両日、京都大学楽友会館で開催された。

本年度は地区で委員会を設けて検討している「大学図書館の相互協力活動」及び「図書館資料の廃棄基準」の問題をテーマにして、これまでの検討成果を各委員から報告して、質疑応答を行なった。両日とも約

70名の参加者があり盛会であった。また研究報告のうち、とくに山田修氏（大阪市大）の「学術雑誌の廃棄基準について」及び酒井忠志氏（京都府大）の「単行本の廃棄基準について—京都府大の調査例を中心に—」は質的にきわめて高いものとして注目された。

国立国会図書館長来館

関西地方図書館視察中の国立国会図書館長河野義克氏、同連絡部長廿日出逸暁氏の一行は去る9月9日（木）午前9時本館を訪問し、堀江館長等と会見、その席上館長より本館の現状、将来計画等について説明があり、国会側より相互協力、館外活動等について説明があった後、種々懇談した。

使いやすい図書室へ

— 農学部図書室 —

農学部図書室では利用上いろいろ不満な点が生じてきたため、このたび従来の1階事務室2階閲覧室を改め、二階を閲覧室、1階の2/3を事務室、1/3を閲覧用に使用することにした。

この移動により閲覧面積が従来より広くなり、2階の足音、天井が低い照明が充分でなかった等の欠点が解消されることになった、反面窓口が2つになるため事務・閲覧者にとって若干の問題がおこるがこれは館員の努力でカバーして行きたい。

医学図書館と改称される

— 医学部図書館 —

6月12日、医学部図書館として竣工を見たが、その後結核研究所およびウイルス研究所から同図書館の運営委員が選出されたので、8月17日の教授会において医学図書館と改称することを決定した。

文学部史学科閲覧室移転

陳列館にあった文学部史学科閲覧室は東館新館の完成によって同所に移転し、約10万冊の図書を新書庫に移した。すでに整理も終り9月1日より開館している。

外国雑誌展示会

去る9月14日（火）より17日（金）までの4日間陳列室において本館の主催で丸善の協力のもとに、自然、人文各部門にわたる外国雑誌約2千種類を展示したが毎日参観者多数あって有意義であった。

○ Cumulative Book Index; a world list of books in the English language. 1898-1965. N. Y., Wilson.

最初は United States Catalog (合衆国出版目録) として著者名リストと書名リストの2冊を出版したのであるが、後に版をあらため、著者名、件名、書名の三つから検索できる辞書体目録にあらためられた。4版の United States Catalog は1928年以前に合衆国で出版された図書の目録であるが以後改名して Cumulative Book Index となった。Cumulative Book Index に改名してからは副書名のとおりに英語で書かれた図書の世界的図書出版目録(政府刊行物は除く)であって United States Catalog のサプリメントとなっている。そして7, 8, 12月を除いて毎月定期的に累積して出版されている。この毎月出版されたものは更に、半年刊に、半年刊は、年刊に、年刊は2年分をひとまとめに、2年分累積した刊は最後には決定刊として5年ごとにまとめられ使い易くされている。この図書出版目録は、著者名、件名、書名の三つをアルファベット順に排列しているので使用者は目指す図書の著者名から、編者から、訳者から、書名から、又は件名(主題)から通常の辞典と同じように索引できる。もしある主題、例えば遺伝についてどんな図書が発行されたかを知らうとするときは、Genetics を検索すればそこに遺伝について書かれた書物を発見することができ、更に Eugenics, Variation (biology) を見よの参照が付けられていて関係分野の図書をも知ることができ一層便利さを増している。主題から検索できることにより、伝記、作家研究の場合、被伝者や研究の対象となった作家名からも検索でき、更に国際会議、シンポジウム等の報告書は正式な会合名の記憶がなくても会合で取り扱われた主題より検索できる等便利である。記入事項は著者のフルネーム、完全書名、シリーズ名、版次、出版地、出版年、出版社、頁数、価格、その他簡単な注記がなされ、いずれも巻末には出版社の住所録もついており、その上に月刊で速報性もあり、最終的には5年分が累積されているので過去何年間かをまとめて知る場合の検索の手間をもはぶける等々から英語で書かれた文献の調査には欠くことのできぬ書誌であり、また目録作成の補助者として、さらに図書購入時の参考としても使用されている。附属図書館では

* United States Catalog. 4th ed. Ed. by Mary Burnham. N. Y., Wilson, 1928.

* ---- [Supplement] Cumulative Book Index; a world list of Book in the English language. N. Y., Wilson.

1928-32, 1933-37, 1938-42, 1943-48, 1949-52, 1953-56, 1957-58, 1959-60,

1961-62, 1963, 1964, Jan.1965-June 1965 を所蔵しており今後も継続して購入される。

○ 鈴木豹軒文庫

本文庫は文学部元名誉教授故鈴木虎雄博士の蔵書である。鈴木博士は明治41年より文学部において中国文学の講座を担当され、昭和13年退官、名誉教授になられた後も研究を継続され、日本学士院会員となり、昭和36年には文化勲章を授けられた我が国中国文学研究の最高権威であった。したがってその蔵書も博士の鑑識によって精選された図書である。文学部では、これら博士の蔵書のうち1部は昭和28年に購入したが、昭和38年逝去されたので、今回この貴重な蔵書6,991部を譲り受けたものである。

この中には「明刊本文選六十巻」「明刊本呉正子註」「李長吉歌詩四卷外集一卷」など16世紀以前に出版されたいわゆる善本も多数含まれており、それらはほとんど天下の孤本ともいふべきものである。この蔵書中には博士の所説が書きこまれた図書も多く、今後中国文学、中国哲学研究者には研究を深める上にも図書とともに重要な役割を果たすであろう。

○ 平野国臣筆「和歌短冊書翰貼交幅」寄贈される

この幅は紙中の中段に右から「大君の」、「数ならぬ」、「海山の」の和歌短冊3葉を貼り、下段には国臣が尊父に宛てた書翰4通が4段に貼られてある。書翰は8月16日付2通、8月22日付1通、10月朔日付1通で、生野義挙を目前に控えた国臣の慌しい行動が見え、いずれも史料価値の高いものであるが、ことに最後のものは尊父への決別の書翰として見る者の心をえぐる。

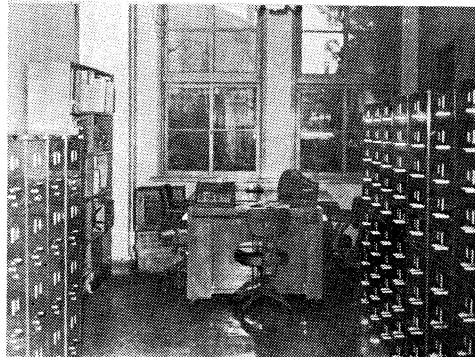
寄贈者は神戸市在住の陣野稔氏で、国臣の実兄の曾孫にあたられる方であるが、同家からは先にも国臣の佩刀と愛用の横笛および有名な紙捻詩歌帖の寄贈を受けている。先の寄贈品といい、今回のものといい、一家の至宝であり国家の貴重な資料であることを思うとき、こうしたものをも保管していく図書館使命の重大さを痛感する次第である。

—— 館内めぐり ——

地磁気世界資料室

国際地球観測年事業は1957年7月より開始され、当地磁気世界資料室が附属図書館に同年12月に開設された。また国際地球観測年事業の地磁気部門として、世界資料センターは、4カ所（日本、アメリカ、ソ連、デンマーク）あって、日本では当資料室にセンターがおかれている。

地磁気観測所は世界各地に約250カ所あって、資料を観測所から直接送付してくるものもあるが、大部分は他のセンターを通して送られてきている。この資料の大部分はマイクロフィルムプリントにされてあるが、シートとして送られてくるところもある。IGY（国際地球観測年）は1957年7月から1958年12月までの期間であったが、その後も観測が続けられ、1964年1月よりIQSY（国際太陽静穏年）がはじまり、これらの資料についてもIGY同様の事業が行なわれている。この他観測所の資料は整理されて印刷物として直接当センターに相当数送られてきている。これらの到着した資料は、資料送状と照合した後、到着状況を示すための事務上の手続を経たのち、これを、日本学術会議国際地球観測資料室に送付する分の1本と、研究者の利用に供するための保存用が1本、計2本を本館文献複写室で、フィルムコピーする。この保存用のための資料は北側の部屋にある地磁気世界資料閲覧室に保管され、研究者に利用されている。資料の貸出も行なっている。又一方内外の研究機関への資料提供も行なっている。



センターの本来の使命として国内の観測所はもとより、オーストラリア、ニュージーランド、フィリピン、インド、インドネシアから寄せられてきた資料を他の各センターに即刻送付しなければならない。このなかには南極観測で知られている昭和基地観測所の資料も含まれている。又年に1回カタログを発行しているが、これはプロジェクト（資料の内容種類）別に分類した資料の到着状況を示すものであって、各センター、内外の研究機関及び観測所に送付している。

この資料室の運営については京都大学の地球電気磁気学関係の研究者が関係している。

昭和39年度京都大学全学受入図書冊数

学 部 名	和 漢 書	洋 書	計	果 計		合 計
	冊 数	冊 数	冊 数	和 漢 書	洋 書	
図 書 館	2,848	1,584	4,432	286,717	130,198	416,915
法 学 部	2,288	4,435	6,723	132,309	184,241	316,550
医 学 部	170	424	594	12,632	60,812	73,444
病 院	213	602	815	7,382	18,128	25,510
工 学 部	2,807	4,771	7,578	56,530	92,930	149,460
文 学 部	14,122	4,306	18,428	301,332	157,211	458,543
理 学 部	797	4,802	5,599	22,300	108,799	131,099
経 済 学 部	2,726	3,763	6,489	104,777	120,871	225,648
農 学 部	2,942	1,746	4,688	87,730	89,338	177,068
教 育 学 部	1,417	1,648	3,065	11,337	15,514	26,851
薬 学 部	553	1,674	2,227	2,314	3,987	6,301
教 養 部	3,875	4,868	8,743	100,541	61,776	162,317
化 学 研 究 所	183	485	668	3,485	9,028	12,513
人 文 科 学 研 究 所	3,393	815	4,208	105,447	17,016	122,463
結 核 研 究 所	15	68	83	752	909	1,661
工 学 研 究 所	94	82	176	1,561	2,314	3,875
木 材 研 究 所	161	112	273	2,181	1,033	3,214
食 糧 科 学 研 究 所	125	281	406	1,374	1,469	2,843
防 災 研 究 所	259	354	613	1,857	1,823	3,680
基 礎 物 理 学 研 究 所	134	925	1,059	931	7,544	8,475
ウ イ ル ス 研 究 所	4	18	22	93	321	414
経 理 部	78	85	163	3,243	278	3,521
施 設 部	0	0	0	727	50	777
演 習 林	282	99	381	2,731	1,567	4,298
農 場	0	0	0	947	92	1,039
工 業 教 員 養 成 所	860	126	986	4,556	578	5,134
数 理 解 析 研 究 所	312	2,601	2,913	329	4,424	4,753
原 子 炉 実 験 所	1,077	1,699	2,776	1,273	2,075	3,348
経 済 研 究 所	2,198	1,032	3,230	3,020	1,335	4,355
合 計	43,933	43,405	87,338	1,260,408	1,095,661	2,356,069
合 計 金 額	円 47,558,025	円 180,588,119	円 228,146,144			

注 金額は寄贈図書の評価額を含む。

あ と が き

▶台風一過、秋風がたって、いよいよ燈火親しむ
勉学の季節となりました。図書館が多くの方に意
識され、利用されるものもこの季節です。
▶さてこの号まで連載してきた附属図書館内の各
職場を紹介する「館内めぐり」も終って、次号
からは各学部研究所の図書室をご案内することに

なります。

▶この「静修」もやっと7号になりました。何度
も申しましたように静修は図書館と利用者の間の
相互理解を深めることが発行目的でありますから、
図書館あるいは、本紙に関するご意見をどんどん
お寄せ下さるようお願いいたします。

京都大学附属図書館報「静修」Vol. 2, No. 2 (通巻7号) 1965年9月30日発行・発行人 岩猿敏生
発行所・京都大学附属図書館・京都市左京区吉田本町・電代表77-8111(内線)150-159